担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィス アワー	教職員への 授業公開	
井上 孝		1 年次 後 期	選択	2	48	演習	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対する フィードバック方法	病原因子検査学演習Ⅱでは、細菌の産生するエンテロトキシンが要因となる健康被害を調査し、臨床および社会に還元できる情報を作成する。また、エンテロトキシンについて遺伝子レベルで説明できる知識を修得する。 課題に対するフィードバック方法/レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。 実務家教員(井上)が実施する。								
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「健康に対する社会的ニーズを認識するとともに、グローバルな視野を持ち、科学的根拠に基づき、自ら考え、判断し、課題解決に向けて対応することができる。」及び④「臨床検査技師の役割を探求し、臨床検査学分野の高度な実践者、教育者及び研究者として社会に対して責任を果たし、貢献できる。」の達成に寄与している。								
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	1. 生体に及ぼす生活習慣要因の原因を理解できる。 2. 疾病要因の仕組みを学ぶことにより疾患への理解ができる。 3. 健康障害・疾病発生および健康維持・増進の予防対策が理解できる。								
時間外学習に必要な 学修内容および 学習上の助言	第1回〜第24回事前学習:事前に計画されている単元について予習を行っておく/予め指定した論文を読み、その内容を概説できるようにしておくこと(各30分) 第1回〜第24回事後学習:講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める/教員が配布する資料で復習を行うこと。(各30分)								
	※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。								
授業計画	第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第	## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ##							孝孝孝孝孝孝孝孝孝孝孝孝孝孝孝孝孝孝孝孝
評価方法 評価基準	授業参加態度、プレゼンテーション、レポートなどを合わせて総合的に評価する(100%)。								
教科書	なし参考書等						なし		
学生への メッセージ	食中毒の分類と毒素の種類及び毒素の人体への影響などについて臨床検査技師として必要な知識を教授します。								